

「日本で就職」したい留学生のための支援プログラム～学民連携事業～

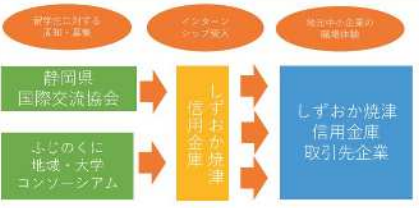
しずおか焼津信用金庫 × (公財)静岡県国際交流協会
× (公社)ふじのくに地域・大学コンソーシアム × 地元中小企業

1. 取組概要
しずおか焼津信用金庫を介した短期インターンシップを通じて、海外展開に取り組む地元中小企業がグローバル人材の雇用を検討する機会を創出すると同時に、外国人留学生に対し、特徴ある地元中小企業を知る機会を提供し、将来的な留学生の県内就職に繋げることを目的としています。また、本企画は県内の留学生支援に積極的に取り組まれている(公財)静岡県国際交流協会及び(公社)ふじのくに地域・大学コンソーシアムと連携して開催することで、県内大学に通う外国人留学生に対して広く事業周知を行っています。

2. 該当するSDGs目標

- 4 質の高い教育をみんなに**
短期インターンシップを通じて、日本企業で就職を希望する外国人留学生が実際の労働環境を実感する機会を創出します。また、働く中でのコミュニケーションや、ビジネスマナーの習得、今後の就職活動に役立ちます。
- 8 豊かで持続可能な未来をみんなに**
インターンシップを受入る企業の国際化・事業の活性化を促進します。また、幅広い国際感覚を持つ外国人留学生との交流を通して、人材雇用の面で企業としての視野を広げます。
- 17 持続可能なパートナーシップをみんなに**
大学機関、金融機関、民間企業それぞれの立場からアプローチし、協働して事業を行うことでパートナーシップの実現に繋がっています。

3. 取組イメージ



4. ポイント

外国人留学生に対する周知・参加募集は、静岡県国際交流協会並びにふじのくに地域・大学コンソーシアムが行います。参加者はしずおか焼津信用金庫のインターンシップで事前研修を行い、その後、信用金庫取引先の地元中小企業に訪問し短期のインターンシップを受講します。企業ごとのプログラムに沿って業務体験を行い、最終的に成果発表会を設け、参加者同士で情報共有を行います。

5. 取組が開始されたきっかけと展開

しずおか焼津信用金庫は、取引先中小企業の海外展開支援に力を入れています。取引先企業の海外人材活用ニーズに対する支援策として、ふじのくに留学生就職促進プログラム(文科省委託事業、事務局：静岡大学)と連携した「留学生インターンシップ」を開始しました。令和3年度をもって同プログラムが終了となったことから、(公財)静岡県国際交流協会並びに(公社)ふじのくに地域・大学コンソーシアムとの連携を新たに構築し、留学生インターンシップ実施にあたって県内大学への事業周知ならびに留学生の参加申込受付に関する事務面での協力を得ることが出来ました。また、取引先企業の海外人材活用に関する相談先・連携支援先として当金庫のサービスメニューの拡充に繋がりました。

6. 応募した取組の今後の計画・展開

今後も留学生のインターンシップ事業を継続して行っています。この事業を機に、地元中小企業と外国人留学生たちの母国をつなぐビジネスに発展すれば嬉しいです。訪問先の企業にとっては、自社の取組を知ってもらい、語学の知識を有する若い人材の獲得につながってもらえれば、地域経済活性化に貢献出来るかと期待しています。



←職場体験終了後報告会の様子

7. 汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

金融機関が海外展開指向の高い企業を募り、大学機関と連携して参加留学生の募集を行っている、学民金での連携事業です。民間企業と学校機関との間に金融機関が入ることで、学校機関ではカバーしきれない、地域の魅力ある企業の紹介や、事業を進める中での企業とのやり取りを円滑に進められるといったメリットが生まれます。地域の各機関が連携し、グローバルな視点での人材登用に繋がる取組を行うことで、地域全体としての視野を広げ、SDGs目標の達成に向けた活動促進に繋がっていくことが出来る取り組みです。



↑企業での職場体験の様子



←職場体験終了後報告会の様子

学生がデザインシンキングで草薙の商店の魅力や課題を発見&改善する!

常葉大学造形学部 × 草薙商店会 × 静岡市

1. 取組概要
JR草薙駅は県内の乗車人員ランクで、第6位(約8,300人)であり、この数は新幹線が停車するJR掛川駅よりも1,000人ほど多い状況です。背景として、常葉大学と静岡県立大学の存在が挙げられますが、一方で草薙商店会は若年層に商店の魅力や課題を認知させる方法について課題を抱えていました。本活動は常葉大学造形学部のデザインシンキングを学ぶ授業(全15回)をハブとして、学生と各商店をつなぎ、店舗やサービスの魅力や課題をデザインシンキングの手法を使って深掘りし、付加価値をもち改善策を提案したプロジェクトです。

2. 該当するSDGs目標

- 4 質の高い教育をみんなに**
2年生14名が履修するデザインシンキングの授業内で実践されました。PBL形式の授業で、学生は5グループに分かれ、5店舗の改善策を従業員にヒアリングしたり、調査を行ったりしながら検討しました。授業後のアンケート項目「草薙商店会との協働は自身にとって有意義な活動となりましたか」に対し、約7割の学生が「とてもそう思う」、残り「ややそう思う」とポジティブな意見が多く寄せられる結果となりました。
- 11 持続可能な消費の文化をみんなに**
同アンケートの「機会があったらもう一度草薙商店会でき取り組みたい」という項目に対しては、約9割の学生が前向きな意見を持っていることが判明し、当初の草薙商店会の課題克服の兆しが見える結果となりました。5店舗のうち1店舗からは学生の提案を実現できるよう今後積極的に検討したいという声をいただくことができました。
- 17 持続可能なパートナーシップをみんなに**
活動遂行にあたり、草薙商店会の5店舗(伊運電気、春田眼鏡店、ミヤパン、アレグロ・アッサイ、カヨコ書店)にご協力いただきました。5月8日の授業では静岡市役所の職員から、商業振興やまちづくりの現状に関してご指導いただきました。7月3日の最終発表回では、静岡信用金庫草薙支店の研修センターを会場として貸していただきました。

3. 取組イメージ



4. ポイント

- 若年層に市民参加型のまちづくりの意識を持ってもらい、持続可能な静岡市を考えるきっかけとなることを本活動の主目的です。
- 草薙の街の重要なステークホルダーである常葉大学、草薙商店会、静岡市が一致協力した共創的プロジェクトです。
- 学生がデザインシンキング(バルソナ作成等)で商店の魅力や課題を発見し、それを利用者視点で改善する提案を行いました。

5. 取組が開始されたきっかけと展開

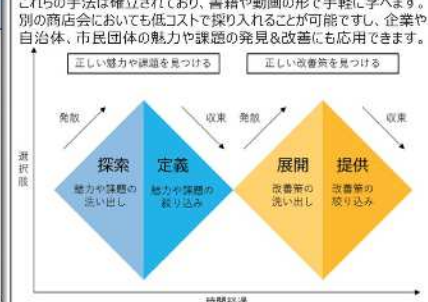
2023年8月現在、静岡市の人口は約68万人です。静岡市が試算した予測によると、2040年頃に約56万人まで人口が減少する見込みです。加えて、生産年齢人口(15〜64歳)の減少割合が全改正令の中で最も高くなるという見込みです。一方、静岡市は令和4年に認定した「静岡市中心市街地活性化基本計画」において、SDGsに関連した5大構想の一つとして「教育文化の拠点づくり」を掲げており、その中で「JR草薙駅・草薙駅周辺地区に、すべての人が質の高い教育を受けることのできる機会を創出し、地域経済の活性化を図るとともに、多くの若者が集まり、交流が生まれるまちを目指す」と宣言しています。以上を踏まえ、本活動はJR草薙駅周辺で教育を受けている若者の代表である大学生と地域経済の代表である商店会が授業を通して交流し、商店の魅力や課題を発見改善する設計となりました。そうすることで、未来の静岡市の持続可能性(地元で暮らす、地元の商店やサービスを利用する、地元で働くなど)を高めるきっかけになるのではないかと考えました。

6. 応募した取組の今後の計画・展開

- 草薙商店会からは次年度以降も継続して取り組んでほしいという希望が寄せられています。今年度の反省を活かしながら2024年度の授業設計を進める予定です。
- 2023年8月18日〜9月9日までの日程で、学生が各店舗に提案した改善策のポスターをJR草薙駅構内の掲示板全面(高さ1m79cm×幅2m60cm)に貼り出します。駅利用者や周辺住民に本活動について認知してもらうのが目的です。
- 常葉大学の公式サイトで実施している、地域貢献活動の取組事例発信企画「常葉大学×SDGs -地域とともに持続可能な社会の実現へ-」に本活動の報告記事を掲載する予定です(年内掲載の見込み)。
- 本活動を通じて得られた知見を第三者が手軽に利用可能な再現性のあるメソッドに落とし込み、マニュアルとしてまとめ、常葉大学造形学部の2024年度紀要(大学の学術雑誌)で発表する予定です。


7. 汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

デザインシンキング(デザイン思考)とは、対象とするコトやモノのデザインを検討する際にデザインプロセスとして、対象と向き合い課題を解決するために応用する考え方で、考え方の柱になるのが、利用者視点です。デザインシンキングでは事業者側の都合で発想するのではなく、利用者の立場になって、対象の課題やニーズを深掘りしていきます。この考え方を活用することで、事業者側が把握していない問題点を浮き彫りにしたり、適切な改善策を効率的に考案できたりするため、デザインシンキングはこれまでデザインとは無縁であった多くのビジネス・サービスに広がりはじめています。具体的な手法として、バルソナの作成(典型的な利用者像の検討)、カスタマージャーニーマップの作成(利用者の行動や考え方を分析するためのフレームワーク)、フィールド調査、プロトタイプ(試作)などがあり、これらを適宜駆使しながらダブルダイヤモンドと呼ばれる下図のような①探索→②定義→③展開→④提供という流れで探索と収束のプロセスを繰り返しながら改善策を検討します。これらの手法は確立されており、書籍や動画の形で手軽に学べます。別の商店会においても低コストで探り入れることが可能です。企業や自治体、市民団体の魅力や課題の発見&改善にも応用できます。



災害に向き合うために！未来への備えを、今日から始めよう。

株式会社建設システム × 静岡大学

<p>1.取組概要</p>	<p>防災についての研究を進めている静岡大学の藤井准教授と、土木業界向けソフトウェアを開発・販売している建設システムの技術と知見を集約し、安否確認・防災・備災支援アプリ「リスクゼロ」を提供する取組です。災害発生時のトリセツはもちろん、自宅の備蓄の管理、災害発生時の連絡ツール、同グループ内での位置情報共有、発災情報の取得など普段から防災を意識する機能を搭載し使用者とその家族の安心・安全を支援します。事前に災害に対する準備・対策を行い、災害時のリスクをゼロに近づけることを目指しています。</p>
<p>2.該当するSDGs目標</p>	<p>4. 教育 静岡県内の小中高校で防災の教材として活用していただいています。現在、静岡大学の藤井研究室の学生が講師となり、県内で4校講演を実施しました。ハザードマップの見方や自身が災害に巻き込まれた際どう対応するかなどを学習しています。</p>
<p>11. 持続可能な都市</p>	<p>災害に対する知識の習得や準備を事前に促すことで実際に発生した後被害を受ける人々の数を減らすことができます。その他気候変動などを含む様々な場面に備える準備・対策が行えるコンテンツと機能を提供します。</p>
<p>17. 持続可能なパートナーシップ</p>	<p>防災に対する知識・研究実績のある静岡大学と、ITのプロフェッショナルである建設システムが、1年間の共同研究の末サービスの提供を開始しました。今後はさらなるコンテンツの監修や追加機能の充実を行い、サービスの発展を目指しています。</p>
<p>3.取組イメージ</p>	<p>分かりやすい画面構成で大人から子供まで普段から使えるようになっています。イラストやアイコンをポップにし親しみやすさも出しています。→</p> 
<p>4.ポイント</p>	<p>災害時だけでなく、普段使いできる機能を搭載することで常に防災に対する意識付けができるのがポイントです。静岡大学でも防災に関する知識や備えに対する講演・解説を行っていますが、アプリ化することでさらに幅広い方に知ってもらうことができます。</p>

<p>5.取組が開始されたきっかけと展開</p> <p>風水害で人が亡くなるリスクを、ITのちからを使って限りなくゼロに近づけたいという思いがきっかけです。KENTEMでは「リスクゼロ社会」をビジョンとして掲げておりそのリスクの中には「災害」も含まれます。その思いに静岡大学も共感し共に研究をスタートさせました。防災に関するアプリやウェブサービスは多くの企業が提供しているため、いかに差別化をする部分で悩みました。意識したのは「普段から気軽に使えるもの」であることです。よくあるハザードマップは1回見たら災害時まで見ない、旅行先などのマップを見ていしか分らないという声もあったので、自身がいる場所のマップを視覚的にも分かりやすく表示すること、災害時だけでなく普段から見られるようコラムのようにトリセツを提供したり、備蓄管理ができるなど工夫を凝らすようにしました。</p>
--

<p>6.応募した取組の今後の計画・展開</p> <p>今回、防災として風水害や地震を想定した内容となっています。ですがリスクの中には「事件、人災」なども含まれています。今後は、そのような分野のリスク回避や備蓄ができるような機能を追加していく予定です。さらに、企業や家庭だけではなく、学校などにも導入し各団体が発災時の個人の安心安全を確保できる状態にできるよう発展させていきたいと考えています。</p>
--

<p>7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント</p> <p>現在災害についてのトリセツを静岡大学、アプリの開発運営をKENTEMが行っています。実際の避難経路や現在の道路状況なども把握できる避難時はもちろん、普段の移動においても「ここは工事中だから迂回しよう」と把握することが出来ます。その点で、土木関係の企業様や消防署、警察署の方々とも協業したいと考えています。</p> <p>現在リアルではなく、オンライン上での関係構築が多くなってきていますのでITで何かを管理・把握・連携することは今後重要になってくると考えます。今回備品管理を搭載していますが、それは日用品の管理としても展開できます。安否確認はテレワークや学校でのオンライン出席としても活用できます。</p>
<p>避難経路の確認</p>  <p>購入品の管理</p> 

さくら棒ソフトクリームで食品ロス削減

株式会社大黒屋商事 × 株式会社天神屋



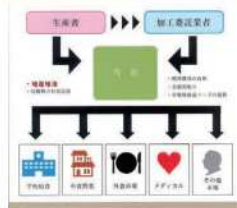
<p>1.取組概要</p>	<p>株式会社大黒屋商事は、3年前の2018年にクラウドファンディングを行い、老舗のお菓子メーカー・佐藤 駄店のさくら棒（元祖といわれている商品）の事業を継承し、焼津の自社工場にて復活させました。全ての工程が手作業のため大量生産が非常に難しい商品で、尚且つ、商品の長さをそろえる工程で出してしまう切れ端や規格外品などによる食品ロスという課題も抱えていました。そんな時、地域の食材を使用した商品開発に取り組んでいる門出ソフトクリーム（株式会社天神屋）と出会い、通常なら廃棄されてしまう部分を細かく砕いて混ぜ込むことで、静岡で愛されている駄菓子の「さくら棒味のソフトクリーム」を完成させました。</p>
<p>2.該当するSDGs目標</p>	<p>9. 産業・科学の革新 後継者不足のため、創業68年の幕を閉じた老舗「さくら棒」メーカーの技術を受け継いだ大黒屋様とさくら棒販売で連携し、技術の継承を支援しました。</p> <p>12. 持続可能な消費 全ての工程が手作業のため、非常に難しい商品で、商品化の際に生じる切れ端や規格外品などの食品ロスが生じていた。</p>
<p>17. 持続可能なパートナーシップ</p>	<p>天神屋で2店舗に併設しているソフトクリーム専門店「門出ソフト」の新商品として、静岡で長く愛されている味である「さくら棒」の技術とそこで発生する端材という社会課題の解決に向けて、商品化に取り組みました。</p>
<p>3.取組イメージ</p>	
<p>4.ポイント</p>	<p>静岡で愛されている駄菓子である「さくら棒」をより多くのお客様に食べていただく機会をつくること、また、通常なら廃棄されてしまう部分を無駄にせず、商品化して販売させていただくことで、事業の継続及び食品ロスの削減につながります。</p>

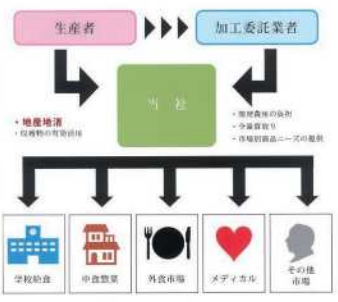
<p>5.取組が開始されたきっかけと展開</p> <p>広報職の集まりで大黒屋山口さんと出会いがきっかけ。静岡で愛されている駄菓子である「さくら棒」を天神屋店舗で販売したい要望の中、商品取引が多くなり、端材がその分増えてきて困っているとのこと（実は全てが手作業。端の端材が多く出る商品）。端材が勿体無いと、自社で「かき氷」での商品化を試したが、ふわふわ食感前に溶けてしまい何か新しい商品に生まれ変われないか検討していたところ、地元食材を使用したソフトクリームを展開していた天神屋の「門出ソフトクリーム」なら幅広いお客様が喜んでもらえるのでは？と商品化への話が広がりました。端材を確認し、「さくら棒」のサクサク食感と口溶けの良いを生かした「さくら棒ソフトクリーム」が誕生した。</p>
--

<p>6.応募した取組の今後の計画・展開</p> <p>静岡で愛されている駄菓子である「さくら棒」の手作業をもっと知って欲しい！</p> <p>端材を使用した新しい商品への展開。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静岡で愛されている駄菓子「さくら棒」の認知度アップ ・静岡食材認定など ・沖縄のサータンダギーのような地元駄菓子を大きく広報したい。 ・端材を使用した新商品化 ・さくら棒の言い伝え ・門出ソフトクリームをアイス展開。 <p>さくら棒を活用した新しい商品開発を進めています。</p>

<p>7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント</p> <p>天神屋が一部店舗で展開している「門出ソフトクリーム」での商品化を通じて、地元食材の販売先として協力（静岡で愛されている駄菓子である「さくら棒」の認知度をアップさせるため）</p> <p>空港などでの販売。静岡だから購入できる商品に育てたいため、お土産需要に販売を広がっていく。</p> <p>「静岡で愛されている駄菓子」のような認定制度を作って、色々なお菓子を訴求していけたらと思います。「さくら棒」や「さくら棒ソフト」も認定いただき、静岡をアピールしていきたいと思っています。</p>
--

高校生考案のレシピを商品化！

静岡県立小笠高等学校 × コッコ (株) × (株) 濱村屋	
1. 取組概要	高校生が試行錯誤を繰り返し考えた、創意工夫の詰まったレシピを、ビジネスマッチングを通じてご紹介いただきました。加工メーカー様協力のもと商品化された「夕し芽チキカツ（菊川市産芽キャベツを使用したチキカツ）」は、2023年3月、菊川市の学校給食で提供されました。
2. 該当するSDGs目標	3. 取組イメージ
 地域の食品を使用することで、地域活性化に寄与しています。	 加工メーカー様と協力して、高校生の思いの詰まったレシピを商品化しています。
	
	4. ポイント 菊川市産芽キャベツを使用しています。当社の経営革新モデル「地域中小企業食品メーカー向け開発支援を特長としたP/B用商品の開発体制の構築」を活用し、メニュー考案、商品開発、原料買い付け、試作サンプル、完成品の買取を行い、得意とする販路に売り込みます。

5. 取組が開始されたきっかけと展開	7. 汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント
きっかけは弊社お取引先様からのご紹介でした。菊川市で、高校生が考案したレシピが飲食店、市内小中学校給食での提供に繋がっているお話をいただき、ビジネスマッチングを通して県立小笠高校様をご紹介いただきました。高校生が考えたレシピを商品化するのに適した加工メーカー様のご協力により、試作を重ねた後、2023年3月菊川市の学校給食にて提供されました。	1. 学校給食や外食産業など様々な市場に合わせたメニューを考案します。 2. それに応じて加工メーカーと商品を共同開発します。 3. 原材料は主に県内生産者から買い付けます。 4. 試作サンプルの買い取りなど開発コストのメーカー負担を軽減します。 5. 完成品は全量買い取り、得意とする販路に売り込みます。
6. 応募した取組の今後の計画・展開	
新たな食材、食品を求め、仕入先と得意先の間を縦横に走り、きめ細やかなサービスに努めます。地産地消の取組みをさらに活性化させ、地域活性化に付与し、静岡県の魅力を発信し続けます。	

人口減少が続くオクシズの移住者増加のための情報発信

常葉大学 経営学部 × 静岡市 葵区役所地域総務課 × 常葉大学地域貢献センター × 日興美術株式会社 × 地域おこし協力隊	
1. 取組概要	人口減少を解決課題に掲げる静岡市中では、人口ビジョンの総合戦略により減少速度を緩和することに成功しました。一方で、市北部に位置するオクシズ地区に限っては、人口の約4分の1が失われていることが分かりました。そこで、令和3年度から常葉大学経営学部と静岡市葵区役所地域総務課が連携し、魅力溢れるオクシズに関する情報を幅広く発信することで、SDGsの「住み続けられるまちづくり」を目指しました。また、課題解決型学習を通して大学生がオクシズの地域課題を理解し解決に取り組み、SDGsの「質の高い教育」を実現しました。さらに、オクシズの自治会連合会や地域住民、地域おこし協力隊、地元企業に協力を仰ぐなど産学官民の体制により、SDGsの「パートナーシップ」で目標を達成しました。
2. 該当するSDGs目標	3. 取組イメージ
 オクシズの移住マップ（2,000部）や生活ガイドブック（1,000部）を制作し、東京移住センターや移住イベントで配布しました。また、葵区役所のYouTube「あおいくんちゃんねる」の動画制作を通して、オクシズの情報を幅広く発信しました。さらに、静岡オクシズ卓球フェスティバルのイベントや台風15号の復興支援活動に参加しました。	
 近年の教育アプローチとして注目される課題解決型学習（Project Based Learning）を通して、大学生がオクシズの地域課題を理解し、現地調査やアンケート調査を実施することで、新たな情報を発見・発信するなど課題解決能力を獲得しました。ボランティアや復興支援活動へ主体的に参加するなど高い教育の効果が示されました。	4. ポイント ● 本取組の3つのポイント ①【SDGs11】オクシズの魅力を幅広く情報発信し、移住者の増加が見込めることにより、「住み続けられるオクシズ」が期待 ②【SDGs4】オクシズの課題を大学生が知り、課題解決に向けて主体的かつ実践的に取り組むことで、質の高い教育を実現 ③【SDGs17】産学官民で連携を図り、オクシズの経済発展に寄与
 常葉大学経営学部および静岡市葵区役所地域総務課の連携に加えて、オクシズの7地区（井川、梅ヶ島、大川、玉川、大河内、清沢、霞橋北）の自治会連合会長・地域住民の皆さま、地元企業（日興美術株式会社など）および、地域おこし協力隊の隊員の方に協力を仰ぐなど、産学官民の体制より目標を達成しました。	
5. 取組が開始されたきっかけと展開	7. 汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント
令和3年度公募の「しずおか中部連携中核都市圏地域課題解決事業」に応募し採択されたことをきっかけに、令和3年度はオクシズの移住マップ制作やYouTube「あおいくんちゃんねる」制作により移住情報を発信し、続く令和4年度には大川地区の生活ガイドブックを制作し、オクシズの農科地区で開催された卓球イベントのボランティアにも参加しました。なお、台風15号による豪雨災害と新型コロナウイルス感染症拡大により、活動が休止するなど困難な状況に面しましたが、学生自らがオクシズへの復興支援を検討し、大学祭で清沢の特産品などを販売しました。そして売上を全額寄付し、静岡市長より感謝状が贈られました。	● 他の事業所・団体が参加するためのポイント 常葉大学では、専門分野を活かした地域連携を推進し、学生活動を支援しています。各キャンパスの地域貢献課に連絡頂くことで、他の事業所・団体が参加できます。
	
6. 応募した取組の今後の計画・展開	
令和5年度も、しずおか中部連携中核都市圏地域課題解決事業「人口減少が続く中山間地の移住者増加策の検討」に採択され、引き続きオクシズに関する情報発信に向けて取り組む予定です。具体的な今後の計画・展開として、オクシズの現地調査および、地域住民への生活情報調査とインタビューにより情報を収集し、葵区オクシズお試し住宅を活用した移住体験モデルプランを検討します。これらのアクションを通して「葵区Move To Okuzhizuの戦略」の①知ってもらう（認知度向上）と②訪れてもらう（交流人口増加）の成果が期待されます。	● 本取組における真似しやすいポイント マップやガイドブックなどの紙媒体やTV・新聞などのマスメディアの他に、ホームページや比較的情報発信しやすいYouTube、InstagramなどのSNSを積極的に活用することでポイントとして挙げられます。
	

地域資源と応援の連鎖を作る！学生が主体となった持続可能なイベントの実施

学生団体Con-Takt × (株)アキヤマ × 草薙神社龍勢保存会 × (有)草薙オートサービス × 地元自治会

1.取組概要	静岡県内の大学生が中心となり、地域活性につなげていくための企画として、JR草薙駅前の広場で足湯イベントを実施しました。2022年12月にトライアルを実施し、2023年2月に本番を開催。焼津温泉の提供を受け足湯を設置しました。その他にも地元の企業を中心に準備や出店にご協力いただき、当日は合計で約200人の方にお立ち寄りいただきました。		
2.該当するSDGs目標	11 持続可能なまちづくり	8 持続可能な経済成長	3 持続可能な健康
	「住み続けられるまちづくり」をするためには、自分が住みたい街になるようにアクションをしていく必要があります。本活動は、地元の企業や団体と連携して交流を深めることで、関係者の周辺地域への興味・関心を高めることが目的です。学生の成長につながるが共に、今後も地域に関わり続ける人材が増加することにも期待ができます。	3.取組イメージ	  
	今回使用した焼津市の温泉使用量は、平成4年度をピークに横ばい、減少を繰り返し、令和元年度はピーク時の約39%に減少していることが課題に挙げられています。温泉(水資源)を遠く地域で使う活用をしていくことは、地域を超えた新たな資源の有効活用につながるのではないかと考えています。	 	4.ポイント
	駅前イベントを開催したことで、主に公共交通機関を使う学生、社会人、地域の方など、幅広い年齢層の方にサービス体験を届けることにつながりました。併せて地域でイベントを行うことは、歩行者数増加にもつながるので、健康・福祉にもつながっていると考えています。	 	私たち学生だけでなく、企業や自治会に協力いただき、文化・歴史と組み合わせながら、それぞれに意味があるイベントになるように意識しました。毎年学生は変わっていくので、同じことを続けるのではなく、開催する仕組みや人のつながりを次の世代につなげながら、毎年このような機会を作っていく予定です。これにより持続可能な取り組みを目指しています。

5.取組が開始されたきっかけと展開	7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント
学生団体Con-Taktは、草薙にあるコラボレーションスペースTaktを運営する団体です。学生や地域、企業をつなぐことを目的に日々活動を行っています。その中で年に1回何かメンバー全員でできることがないかと考えました。メンバー同士でペアを組んで企画を作り、コンペ形式での企画が良いか投票を行いました。投票には地域の自治会長さんや商店会の方にもご協力をいただき、最終的に『足湯企画』を実施することが決まりました。	<p>●「失敗大歓迎」の機会を作ること</p> <p>連携先が増えると、企画の幅が広がりますが、失敗した際に、多くの方に迷惑をかける結果になってしまいます。そのため、当初は自分達学生だけで企画を実施した方が、周囲に迷惑をかけることがなく、良いのではないかと考えていました。</p> <p>今回はふとしたきっかけからつながりが生まれ、連携をお願いすることになりました。また、プロトタイプ(実験)を事前に取り入れたことで、連携した方と次どうするかを一緒に考えたり、仲が深まったことで、連携する重要性を感じるようになりました。本番はその経験を元により良い取り組みを行うことができました。</p> <p>学生の企画は、代表の考えを筆頭に、メンバーの数だけ目的や手法も変わります。また、毎年新しい企画・新しいメンバーになります。そのため「失敗大歓迎」の機会を設定しておくことは、連携をしながらか持続可能な取り組みをしていくために、他地域や学生団体でも真似しやすいポイントだと考えています。</p> <p>●全員の共通認識の考えを作る</p> <p>人によって企画を進めるときに知識や、考え方は違います。学生は1~4年生で結構変わります。そのため2023年からは企画を立てるのに必要なスキルを学ぶための講座を開催し、企画を作るにあたって意思統一をしていくことにしています。(例)組織行動学、企画立案力、アイデアの出し方etc</p>
「お湯をどうするのか」を相談したところ、焼津温泉をご提供いただくことになりました。「温泉を入れる入れ物はどうするのか」と相談したところ、地元の不動産会社にご協力してくれました。実現に向け多くの壁がありましたが、1つ1ついろんな人に相談しながら進めていった結果、ここに書き切れないほど多くの方に協力をいただき、実現することができました。	  
6.応募した取組の今後の計画・展開	
目標17のパートナーシップを大切にしながら「学生や地域企業をつなぐ」という目的で、今後も新しい取り組みを実施していく予定です。	
結果として「目標4 質の高い教育をみんなに」、「目標16 平和と公正をすべての人に」などにもつながるような取り組みをしていくために、毎年バージョンアップしていければと思います。	
学生だから協力してもらえろということではなく、関わってくれる人それぞれにどんな意味があるのか？を考えてお互いにとって意味のあるものにしていきたいと思っています。毎年1回開催することを継続して「今年は何をするの？」と言われるような取り組みがしていきます。	

エシカル消費促進に向けたウェブサイトの構築とエシカル飼育の普及

企業組合エシカルリビング × 商品提供企業 × 静岡県中小企業団体中央会

1.取組概要	SDGs達成に向けて、エシカル消費への関心度が上昇傾向にあります。これを好機と捉えて、企業組合エシカルリビングでは、令和5年内の運営開始を目指し、エシカル消費に関連する商品を販売するECサイト「A-mon.shop」の構築に取り組んでいます。また一方で、エシカル消費の促進をはかる一環として、「エシカル飼育」というキャッチコピーをつくりました。エシカル飼育とは、動物の飼育に際して、地球環境保護の観点に基づき、当たり前に行っていることを当たり前にする+ONEと銘打ちました。組合ではその重要性を唱え、エシカル飼育の周知・広報に尽力しています。今後、エシカル飼育の重要性が浸透し、そのうえでエシカル消費が促進され、その積み重ねがSDGsの様々なゴールの解決につながるかと確信し行動しています。		
2.該当するSDGs目標	11 持続可能なまちづくり	12 持続可能な消費と生産	15 持続可能な生態系
	エシカル消費の促進活動を通じて、地域経済・地域文化の活性化を図ります。	3.取組イメージ	<ul style="list-style-type: none"> 企業組合エシカルリビング ザリバーサイド カフェの運営 ECサイト「A-mon.shop」の構築・運営 商品一覧 鹿肉ジャーキー、エッセンシャルオイル、小屋の生産・販売、アロマソープ、薪ストーブ 静岡県中小企業団体中央会 生産性向上に資する革新的サービス開発のため設備投資に関する支援、プロモーション支援
	エシカル消費の促進活動を通じて、地球環境と人々の健康を守るよう、責任を持って行動します。	4.ポイント	「A-mon.shop」は、購入者の商品紹介と紹介割引を可能とするWEB販売システムです。購入者自らが、商品のあつせんを積極的に行うことを期待した新たな販売ツールです。
	エシカル消費の促進活動を通じて、森林資源や野生動物の保全に配慮します。	7.汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント	<ul style="list-style-type: none"> エシカル消費は、環境や社会、人や生物などに対する配慮が求められる内容で、SDGsが掲げる17の目標と重なる部分が多くあります。 エシカル消費に関する商品開発やサービスの提供を展開することで、イノベーション創出及び市場における優れたパートナーや取引先を獲得するチャンスがあります。 エシカル消費を推進することにより、消費者や顧客からの共感や信頼が得られ、企業価値とイメージの向上が期待できます。
5.取組が開始されたきっかけと展開	6.応募した取組の今後の計画・展開	 <p>SDGs 達成</p> <p>エシカル消費の促進</p> <p>エシカル飼育の普及</p> <p>SDGs 達成に向けてのプロセス</p>	
企業組合エシカルリビングは、エシカルな生活様式の普及啓発に取り組むことを目的として、中央会の支援のもと令和3年9月設立しました。組合では、エシカル消費に派生するSDGsの普及に向けて、「アニマルウェルフェア(生まれてから死ぬまでの動物の身体的・心的状態の維持)」に尽力し、中でもトリバーを中心とした大型犬の飼育環境や飼主との快適な生活環境を提唱するためのブランド商品(ペット用品・ペット用アレル等)の開発を行っています。令和4年1月、組合施設(ザリバーサイド カフェ)においてエシカルをコンセプトとした商品の展示販売会を実施しました。その際、参加者・購入者から、「品揃えが豊富であり、エシカル消費について考えるきっかけになった」との意見が寄せられるとともに、出店者からはECサイトの本格稼働の要望を受けました。このことをきっかけに、組合では、ものづくり補助金を活用し、ECサイトの構築を開始しました。	<ul style="list-style-type: none"> ECサイト「A-mon.shop」を令和5年内より販売数を制限しながら試験的に運営開始し、運営上の問題点をメンテナンス、令和7年春頃より、本格的に稼働していく計画です。 売上の一部をSDGsに関連する公的団体への寄付を計画しています。 エシカル商品の調達先を確立し、近い将来定額料金でエシカルな暮らしの出来るエシカルサブスクタウンを最終的なゴールと考えています。 		

耕作放棄地整備活動による地域コミュニティ活性化及び自然環境保全

株式会社アクタガワ × 大川企業組合

1. 取組概要
株式会社アクタガワでは、大川企業組合と協力して、大川地区における耕作放棄地整備活動(草刈り)に取り組んでいます。この取組を通じて、大川地区の里地里山としての良好な景観保持、人々が集う地域コミュニティの活性化、さらには、陸地から川・海へ連なる自然環境保全を目指しています。

2. 該当するSDGs目標

11 持続可能な都市とコミュニティ
大川地区は、静岡茶の祖、聖一園師生誕の地として、県内でも有数の茶産地である里地里山です。近年、高齢化と人口減少が課題となっています。耕作放棄地整備活動としての草刈りを通じて、地域住民と企業人が集い、その繋がりを強固なものとするにより、地域コミュニティの活性化を図ろうとする取組です。また、その取組を通じて、大川地区を魅力ある街として、定住者を増やすことにより地域コミュニティの活性化を目的としています。

15 陸の豊かさを守ろう
大川地区は、原生的な自然と都市との中間に位置する里地里山です。大川地区における耕作放棄地整備活動(草刈り)は、里地里山の荒廃から守るものとして、森林や草木、生態系を含めた「陸の豊かさを守ろう」に繋がる取組です。

14 海の豊かさを守ろう
森林や草木からもたらされる栄養分が、大川地区の奥薬科における河川上流から薬科川下流域や安倍川、駿河湾へと供給され、川や海の生態系に大きな影響をもたらしています。すなわち、「陸の豊かさを守ろう」の取組を通じて、川や海の自然環境保全にも繋げることを目指しています。

3. 取組イメージ



4. ポイント

この活動のポイントは、草刈り活動を主体としながらも、ランニングによる近隣の散策、バーベキューといったアメニーズメントの要素も取り入れることで、より多くの人に参加していただける取組となっています。また、地元の団体である「大川企業組合」も協力することにより、地元住民の方にも参加しやすい環境作りをしています。

5. 取組が開始されたきっかけと展開

(株)アクタガワでは、「人間の生きがい」を追究し、豊かな地域コミュニティを創造することを経営理念として掲げています。企業としての短期的な利益を追求するのではなく、社会全体の持続可能性を追求していくことに主眼を置き、SDGs活動に積極的に取り組んでいます。この経営理念のもと、当社は大川地区の里山の保全活動に着目しました。大川地区では、高齢化・人口減少が進むなか、耕作放棄地対策も課題となっています。この耕作放棄地をそのままにしておく、景観の悪化のみならず、水質や大気の浄化・洪水の緩和といった農地の機能も失われ災害時の危険度も高まるリスクがあります。このようなリスクを回避すると共に、絶滅危惧種等の生態系の維持、海洋生物の保護など、SDGs活動における多様な目的を達成する取組を展開していきます。そして、より多くの地域住民の方と協力して問題解決を図るため、当社は大川企業組合との協力関係を構築しました。

6. 応募した取組の今後の計画・展開

2022年11月3日、大川企業組合との協力のもと、当社主催で大川地区の耕作放棄地整備活動を実施しました。2023年9月1日から2025年3月9日まで全社で取り組む「創立25周年記念行事」の一環として、大川地区において耕作放棄地整備活動を実施します。25周年記念行事を契機として、大川地区での活動の更なる拡大と、さらには他地域にも活動の場を広げていく計画をしています。また、大川地区に定着した取組となるよう、当社季刊誌「五感の生活」への掲載のほか、しずおか農山村サポーターと協働し、広報活動の強化も継続していきたく考えています。

7. 汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

里地里山は、「原生的な自然と都市との中間に位置しており、「高齢化」と「人口減少」の課題を抱えています。

地元の地域密着企業として、このようなSDGs活動に協賛し参加することにより、里地里山の再生及び活性化に貢献することができます。

草刈りは、特殊な道具や熟練した技術は必要なく、比較的取組しやすいものであり、より多くの人に参加してもらうことが可能となります。また、実施時期や活動時間などフレキシブルな対応が可能で、他の事業所や団体がすぐにも取り組めるものであります。

今後は、バーベキューなどのアメニーズメント的な要素を取り入れることにより、子どもや高齢者など幅広い世代の人々の参加を期待しています。



大川地区耕作放棄地整備活動(2022年11月3日実施)における実施前(左)と実施後(右)の各風景

若者を防災の担い手に

(一社) BOSAI Edulab × 静岡大学 × 中部電力パワーグリッド(株) × 地域の高校

1. 取組概要
静岡市は南海トラフ巨大地震で大きな被害が予想され、災害を自分事とする防災教育は喫緊の課題となっています。一般社団法人BOSAI Edulab(ボウサイエデュラブ)と静岡大学教育学部藤井基昌研究室、中部電力パワーグリッド(株)が協力し、高校生の防災意欲を高め地域の担い手となる「BOSAIユースアンバサダープログラム」に取り組んでいます。高校生は、防災についての基礎的知識を大学生や専門家から学んだ後、幼児向け防災講座を自ら企画し、幼稚園で実践します。本プログラムを通して、高校生が地域の防災の伝手および担い手となります。これまでに7つの高校、計1500名以上の高校生が参加しています。

2. 該当するSDGs目標

11 持続可能な都市とコミュニティ
若者が防災に主体的に取組、防災を地域に広める伝手となるよう育成しています。防災の担い手の増加を図ること、地域全体の防災力向上を目指し、レジリエントな社会の形成を実現します。
2019年から取組を開始し、これまでに7つの高校で実践を継続的にを行い、計1500名以上の高校生が参加しています。

4 教育の質を高める
本取組は、高等教育の探求に位置づけられており、生徒の探究活動として実践しています。生徒自らが課題を発見し、講座を企画することで、現代的な課題である防災について自分事として考えきっかけを提供しています。中部電力パワーグリッド(株)のアプリを活用した啓発など、ICT教育にも力を入れています。

13 気候変動に具体的な対策を
災害が全国各地で発生しており、とりわけ静岡市では令和5年台風15号において甚大な被害がでました。本取組では、将来を担う高校生が防災について学び、防災教育の考えや伝え方を学ぶことで、経験や知見を次の世代につないでいくことができます。

3. 取組イメージ



4. ポイント

高校生に防災について取り組んでもらうため、一般社団法人BOSAI Edulabと静岡大学教育学部が教材を作成し、中部電力パワーグリッド(株)から停電の仕組みや備えについて知見を共有いただいています。地元高校とも連携し、高等教育の授業として位置づけられています。

5. 取組が開始されたきっかけと展開

本取組は静岡県内の高校教員から、保育体験実習と防災をかね合わせた授業ができないかと相談から始まりました。そこで、少子化対策の一環で行われている保育体験実習に防災教育の要素を掛け合わせ、遊びを通して防災を伝える方法を高校生に考えさせるプログラムを開発しました。これまで防災の知識を学ぶだけだった高校生が、防災の知識や指導方法を学んだ後に、自ら幼稚園に伝えに行くという、伝手及び担い手と変化しました。2019年に静岡県立三島南高校から始まった本取組は、年々参加校が増加し、県内の7つの高校へと実践が広がっています。実践にあたっては、高校生に大学生や専門家からSNSやアプリケーションを活用したアドバイスを実施します。また近年は、地域の防災センターとも連携し、地域の防災施設や人材を活用した実践が広がっています。

これまでの実践校

- 江之島高校
- 島田樟誠高校
- 浜松学芸高校
- 三島南高校
- 駿河総合高校
- 沼津西高校
- 静岡東高校

6. 応募した取組の今後の計画・展開

今後は、さらに多くの高等学校や若者に参加してもらうため、自治体の教育委員会等と連携したり、地域に点在する防災センターと連携した事業として、さらに普及させていきたいです。これまでに、浜松市防災学習センターと連携しており、今年度は新たに名古屋市港防災センターと連携した取組が始まっています。地域の防災施設と連携した取組では、地域特有の防災知識を施設から学び、地元の幼稚園や防災センターの企画するイベントに高校生が参加し、地域防災への若者の参画につながっています。また、継続的な実施に向け、さらに支援して下さる団体を増やしていきたいと考えています。

7. 汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

ワークブックを作成し、他の地域でも取り組めるよう工夫をしています。すぐにも使える教材(紙芝居、絵本、アプリ等)に加えて、防災学習用のワークブックも提供しています。各自で学びやすいように動画による解説も配信しているため、高校生は学校だけでなく、自宅でも学習を深めることができます。さらに、防災について詳しく学びたい子供のために、詳しく学ぶためのWebサイトについても紹介しています。また、災害時に地域の防災情報を収集することのできる地元新聞社や行政機関のWebサイトのQRコードを掲載し、災害時に情報を収集する見聞も身に着けています。防災は幅広い分野がかかわるため、他の事業所や団体も連携しやすいテーマです。



本取組が静岡新聞社企画・制作のしずおかSDG読本に掲載



高校生がワークブックを活用する様子

耕作放棄地の再生と循環経済の実現～地域ブランド確立への道～

丸徳商事有 × 株式会社 × おじまセレクトション機 × ウーマン・ラボ × 株式会社nanairo × 地元農家 × しずおか焼津信用金庫 × 南部町役場 産業振興課

1. 取組概要
丸徳商事の本社がある静岡県清水区穴原(小島地区)の中山間地域では、人口減少に伴う耕作放棄地(茶畑)が増加していることが地域課題の一つです。丸徳商事は産業廃棄物(食品工場排水汚泥や食品カットくず等)に微生物を用いた有機肥料を製造しています。この再資源化肥料を用いて農地回復を行い、大生姜の栽培を行っています。耕作放棄地は地元農家や就労継続支援事業所に委託して新たな雇用を生み出し、収穫後の生姜は各企業と連携して広く商品開発を行い地元の飲食店や自社商品として提供・販売しています。産業廃棄物を肥料へ再生し、耕作放棄地に肥料投入する事で農地を回復させ、栽培可能農地を増やして雇用を生み出し、商品として販売し消費(地産地消)する、持続可能な循環型社会形成事業です。

2. 該当するSDGs目標
12 持続可能な消費と生産: 静岡市の産業廃棄物排出量の約60%以上を占める汚泥に微生物を用いた有機肥料へと再資源化します。(肥料への再資源化で、20トン/日の焼却量を削減) また化学肥料ではなく有機肥料は、地下水浸透水の汚染を削減し、結果として海洋汚染防止にも繋がっています。
15 陸域生態系の保護: 有機肥料を用いることで耕作放棄地(特に再生困難といわれる茶畑跡地)の土壌改良を行い農地として利用しています。耕作放棄地の解消や放任竹林の整備は、周辺の生態系や農村景観の悪化、病害虫の発生や有害鳥獣の住処の増加などの課題解決に貢献しています。
17 パートナリーシップ: ①産業廃棄物の削減と有機肥料の製造及び農地再生による環境面へのアプローチ②耕作放棄地において地元農家や高齢者、障害者等の雇用創出を行う社会面へのアプローチ③製品加工し商品を販売する経済面へのアプローチを、それぞれ企業・団体が本業において協働し、パートナーシップで互いの得意分野からプロジェクトを推進しています。

3. 取組イメージ
産業廃棄物 → 有機肥料製造 → 農地再生
肥料投入 → 収穫 → 出荷

4. ポイント
有機肥料: 現在価格高騰中ですが、丸徳商事は自社で製造できるため低コストで農地再生が可能です。
耕作放棄地: 就労継続支援事業所に委託し、障がい者が活躍しやすい環境整備はもちろん、事業拡大を見込んだ働き手の確保にも取り組んでいます。
生姜栽培: 生姜は、種シロガ1つに対し数倍の収穫量が見込めるため、栽培委託者に対して出来高を高く買い取ることができます。

5. 取組が開始されたきっかけと展開
2015年2月に丸徳商事は肥料製造施設を開業しました。静岡市の産業廃棄物総量の約60%を占める汚泥や動植物性残渣をすべて焼却するのではなく、肥料化する事で昨今の社会問題に対応しようと考えたためです。また環境汚染を防止するため、微生物を用いた発酵処理をすることで、化学物質を使用しない有機肥料への製造を可能としました。丸徳商事の本社がある小島地区(清水区穴原)は人口減少に伴い農業人口も減少し、耕作放棄地(特に茶畑)の増加が地域課題となっています。そこで製造した有機肥料を使用して土壌改良を実施し、他の作物栽培ができないか研究を始めました。結果、茶畑を再生した穴原の農地では大生姜が特に安定して栽培可能であることが判明し、就労継続支援施設や地元農家と協働した生姜栽培事業が本格的に始まりました。地域企業として穴原地区からも発信していきたいという強い思いのもと生姜商品の開発を各企業と行い、多くの商品が生まれ消費者の方へ提供されています。穴原大生姜を地域ブランドとして発信していく連携の輪が徐々に広がっています。

6. 応募した取組の今後の計画・展開
今後は多くの人に商品を知ってもらうため、商品ラインナップを増やしながら穴原生姜ブランドとして、発信力を高め、新たな地域の魅力として確立することを目標としています。生姜は様々な効能が科学的に証明されている健康効果が非常に高い作物であることから、現代社会で高まる健康意識、美容意識に相性が良く、高品質も様々な分野で実用ができてくると思っています。収穫した生姜の下処理工程については就労継続支援事業所と業務委託を行い、商品製造の一端を担ってもらう予定です。また、今後も多くの飲食店や製造業者と連携するため、地域金融機関のネットワークを活用していくほか、自治体や学校機関とも連携した商品開発を行って、地域のSDGs事業としてさらに展開を広げていきます。地域の関係人口を増やしながらか地域活性化に繋げ、穴原地区の魅力発信していきたいです。

7. 汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント
現代日本において、耕作放棄地の増加や農業の衰退は大きな問題です。社会の高齢化により減り続ける農業従事者に対して、耕作放棄地は年々増加しています。本取組はそうした社会問題に対応し、資源循環型社会を実現することはもちろん、全国の様々な地域で同様に実施可能で、汎用性が高い取組です。ここでは穴原地区の土地に適した生姜栽培を行っています。それぞれ土地に適した作物を育てていけば、地域ごとの魅力ある商品が生まれ、やがて循環型社会の実現を目指すことが出来ます。

現代日本において、耕作放棄地の増加や農業の衰退は大きな問題です。社会の高齢化により減り続ける農業従事者に対して、耕作放棄地は年々増加しています。本取組はそうした社会問題に対応し、資源循環型社会を実現することはもちろん、全国の様々な地域で同様に実施可能で、汎用性が高い取組です。ここでは穴原地区の土地に適した生姜栽培を行っています。それぞれ土地に適した作物を育てていけば、地域ごとの魅力ある商品が生まれ、やがて循環型社会の実現を目指すことが出来ます。

丸徳商事株式会社
株式会社nanairo
おじまセレクトション機
ウーマン・ラボ
株式会社nanairo
地元農家
しずおか焼津信用金庫
南部町役場

自治体や学校機関、他企業についても、この循環経済モデルの中で、農耕作や商品開発、消費の面で参加しやすいことはもちろん、新たな静岡の地域資源として魅力発信して点においても、様々な展開が期待できます。

COOL CHOICE in しずおか ～みんなで始める、エコな選択～

静岡グループ × 静岡ガス機 × 地域コラボプロジェクト × 株式会社静岡 × 株式会社ドリムプラザ × 株式会社エスパルス × 株式会社静岡銀行 × 中部電力株式会社 × 静岡市

1. 取組概要
静岡グループでは、地球温暖化を食い止めるために、私たちが生活の中でできるちょっとした工夫や行動(COOL CHOICE=賢い選択)を提案するイベントを2022年11月19日に初開催し、地域での脱炭素への取組み機運向上に取り組んでいます。静岡市内の静岡電車・静岡バス(路線バス)を活用した「スマートムーブ」をはじめ、沿線を中心に楽しみながらゼロカーボンアクションを体験できる企画を、さまざまな企業・団体、学生、行政など地域の方々を巻き込んで実施しています。

2. 該当するSDGs目標
13 気候変動への対応: 脱炭素社会の実現に向けて、一人ひとりの行動変容の重要性と身近なアクションを発信することで、COOL CHOICEへの取組み機運を高めることに努めています。また、ゼロカーボンアクションの一つである「スマートムーブ」を促す施策により、地域の方々が多様な手段を車から電車・バスに転換することによるCO₂削減にも取り組んでいます。【CO₂排出削減量(11月19日):約52t】
11 持続可能な都市とコミュニティ: 将来のまちづくりを担う子供たちへの教育として、静岡市内の高校へ出張授業を実施し、イベント当日に高校生が考えた企画を実現する場も提供しています。【昨年度:市内5校を対象に実施】
17 パートナリーシップ: 「COOL CHOICE」という切り口で、さまざまな企業・団体をつなぎ、一社では取組規模に限界がある「環境啓発」や「SDGs」に対して、地域を巻き込んだ活動に発展させています。

3. 取組イメージ
スマートムーブ: 静岡電車・静岡バス
ゼロカーボンアクション: 自転車、徒歩、電動自転車、電動バイク、電動スクーター、電動アシスト自転車、電動アシストバイク、電動アシストスクーター、電動アシストバイク、電動アシストスクーター

4. ポイント
●静岡電車・静岡バスの無料化といった公共交通の利用を促す施策を同時に実施することで、地域の方々にとってイベント会場に足を運ぶきっかけを作り、連携企業・団体の主催者が沿線での開催しやすい環境を提供しています。
●また、地域の回遊性の向上による人流や経済活動の活性化にもつながっています。【経済波及効果(11月19日):約4億円】

5. 取組が開始されたきっかけと展開
新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、電車やバスの輸送人員が大幅に減少する中、静岡グループでは、地域にきめ細やかなサービスを提供し、地域を活性化させる活動を実施したいという想いから、事業を通して脱炭素社会の実現に貢献できることを何かを考えていた中で、環境省が推進する国民運動COOL CHOICEにおけるゼロカーボンアクション30の15番目「スマートムーブ」の活動を広げるために、静岡市内の静岡電車・静岡バス(路線バス)を無料にするアイデアが生まれました。そして、11月19日を無料の日と決め、COOL CHOICEの取組に賛同していただけた企業・団体へ声掛けを行った中で、電車やバスに乗っていただける目的地として、COOL CHOICEの啓発につながるイベントを開催していただくことになりました。静岡ガス機は、エネルギーソリューションでSDGs DAYを開催したほか、静岡銀行・中部電力株式の共創による「情報銀行」体験イベントを実施。地域コラボプロジェクトは、JR東海駅北口芝生広場で「Kusaフェス」を開催。株式会社静岡は、テレビ静岡本社で「お天気キャスター体験会」や「SDGsマルシェ」を開催。株式会社ドリムプラザは、「地域コラボイベント」を「スマートムーブ」をSDGsをテーマにした企画「ゼロカーボン」を「スマートムーブ」をSDGsをテーマにした企画「ゼロカーボン」を開催。株式会社エスパルスは、スマートムーブをテーマにした企画「ゼロカーボン」を開催。株式会社静岡銀行は、スマートムーブをテーマにした企画「ゼロカーボン」を開催。株式会社中部電力は、スマートムーブをテーマにした企画「ゼロカーボン」を開催。また、沿線において核となるイベントが実現したことで、各会場をめぐる「デジタル周遊フォトゼン」の実施にもつながりました。さらに、静岡市環境局環境創造課と連携し、高校生向けに実施した出張授業の成果発表会として、静岡市内の5つの高校(駿河総合高校、静岡市立高校、清水桜が丘高校、静岡リレシオ高校、城南静岡高校)と入学生による静岡市へのプレゼン企画「ゼロカーボン」を提案発表会も実施しました。ほかにも駿府城公園や長沼周辺において静岡グループが運営したイベント会場の企画やさまざまな既存イベントとの連携もあわせて、70を超える企業・団体の皆様にご参加いただきました。

6. 応募した取組の今後の計画・展開
今後は毎年継続してCOOL CHOICE in しずおかを開催することで、より多くの地域企業や団体の参画を促し、取組をさらに大きくしていきたいと考えています。イベントとしての規模や認知度を高めると、地域の方々の参加者が増やしていき、一人ひとりの行動変容につながることで、地域での脱炭素の取組が加速することに貢献してまいります。

7. 汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント
●ゼロカーボンアクションの提案
このイベントには、ゼロカーボンアクションを提案できるすべての方が参加可能です。イベントを主催していただく以外にも、静岡グループが運営するイベント会場において、出張ブースの一つとして参画していただくこともできます。また、主催していただくイベントについては、静岡電車・静岡バスの沿線エリアで実施していただく場合には、直接的にゼロカーボンアクションの体験を提供しないイベントでも、宣伝の際にスマートムーブでの乗車を促すことで、COOL CHOICEを発信できます。昨年は実際にイベントや音楽イベントも連携イベントとして開催していただきました。
●交通事業者としての試み
このイベントは、公共交通利用促進施策を同時に実施することで、地域の方々を外を促し、回遊性を向上させ、賑わいづくりにつなげることができま。この取組を通じて、脱炭素社会の実現に向けた交通インフラの新たな役割として、交通事業者が環境貢献人流・経済活動の活性化に寄与でき、地域と連携することで持続的な行動変容を促すことができると考えています。これにより、市外や県外の全国の交通事業者にも同様の動きを促すことにもつながると考えています。

【静岡駅の様子】 【駿府城公園での出展の様子】

楽しく協力しながら、水辺の環境を守ってきたい！

(株)ジャクソン × (株)バリバス × (株)エイテック

1. 取組概要

「1パーセントのソーシャルグッド」というスローガンを掲げ、具体的には、3月から翌年2月まで（弊社会計期間）のルアーの前年度年間販売数量の1%に相当する数の稚魚を放流しています。また、代表者を含む全社員の総労働時間の1%を水辺清掃や海中清掃、放流等の環境保護活動に充てています。

2. 該当するSDGs目標

	ルアーの年間販売数量の1パーセントの稚魚放流を目標としており、昨年の実績では、静岡県三内湾に5,300匹、茨城県日川川に5,500匹、愛知県大津海岸に6,000匹の計16,800匹のトラフ放流を実施しました。なお、昨年の目標は、14,800匹（ルアー年間販売数量1,470,691個の1%）であったため、目標を2,000匹上回ることであります。当年度も継続して当該活動を実施中です。
	年間の代表者含む社員の総労働時間（34,177.5時間）の1%で、水辺清掃や海中清掃、放流等の環境保護活動を行うという目標を立てています。昨年は、目標時間342時間に対して、実績は379.5時間、当該活動に従事することができました。当年度も継続して当該活動を実施中です。
	年間の総労働時間の1パーセントの清掃活動を実施するにあたり、当社の従業員だけでなく、一部、他の企業にも参加していただき、当該活動時間を実績時間に含めさせて頂いています。昨年実績の379.5時間のうち、106.75時間は、他企業様に協力していただいた時間です。

3. 取組イメージ



4. ポイント

コロナ禍において、三密を避けられるアクティビティとして、近年釣りをする人口が増えています。一方で、特に初心者の釣りが水辺等にゴミを捨ててしまうことにより、環境問題にもなっています。清掃や放流の活動を自社SNSにて伝えていくことを通じて、環境保護活動の大切さを訴えています。

5. 取組が開始されたきっかけと展開

釣り具を購入してくださるユーザーの皆さんが、どうなれば嬉しいだろうかと、原点に帰って考えました。その答えは3つあると思えました。1つ目は、『よく釣れる道具を手にする事』です。これは創業以来、当社が大切にしてきたモノづくりへのこだわりです。2つ目は、『魚が増える事』です。やはり、魚が多ければ多いほどよく釣れますし、楽しいです。3つ目は『釣り場を減らさない』という事です。当社は、1つ目のポイントについては十分に従事してきた自負がありますが、2つ目と3つ目のポイントについては、不十分でした。そこで、10年後、20年後の将来にわたって、持続的に釣りを楽しめる環境を作るために、取り組みを始めた。実際に取り組みを始めてみると、清掃時間の目標が当社のリソースだけでは達成困難であることが分かり、苦心したことがあったが、関係のある企業の経営者に相談したところ、有難いことに、数社から協力をさせていただく事ができた。

6. 応募した取組の今後の計画・展開

清掃活動について、静岡市の企業と合同して行なうことがないため、環境について関心の高い地元企業様と連携して、この活動を行ってみたい。また、当社としても、協力していただいた企業様に関しては、自社のSNS（Youtubeの登録者は2チャンネル合計で7.59万人、Twitterのフォロワー数は9,795人、Instagramのフォロワー数は2アカウント合計で2.8万人）を利用して、ご協力いただいた内容をPRすることで、相手企業様のイメージ向上等に役立てたいと考えています。

7. 汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

当社の「1パーセントのソーシャルグッド」活動は、新聞やテレビなどのメディアに取り上げていただき、非常に大きな反響がありました。それだけ、近年では環境問題への関心は高まっているのだと感じています。



また、他企業と共同で清掃活動を行っている様子をSNS等でアップすると、当社の社員のみで実施している場合と比較して、格段に閲覧数が増えるという現象が見られます。これは、当社のSNSだけでなく、協力して下さった企業のSNSで投稿した場合には、より顕著にこの現象が起きてきたように感じました（画像左下のSNS投稿参照）。弊社の目標とする活動をサポートしてあげている、という事実が、ユーザーの心理にポジティブに働くのだと思います。




南アルプス聖沢登山道にレスキューポイント看板寄贈

南アルプスを応援する会(法人個人団体等30名) × 静岡市(消防局、経済局、環境局)

1. 取組概要

静岡市の宝である南アルプスは、市街地からのアクセスが悪く、山梨や長野のように多くの登山者が訪れるわけではありません。逆に手つかずの稀少な自然が残っているからこそその魅力があり、アウトドアなどのブームもあって、登山者が徐々に増えつつあります。より多くの登山者に安全に登山を楽しんでいただくために、遭難を未然に防止することはもちろんですが、遭難時に迅速に対応するためのレスキューポイント看板設置がとても重要となります。登山者が増え、交流人口が増えることで過疎化が進む井川地区の活性化の一助となるよう、南アルプスを応援する会の第一歩として取り組みを始めました。

2. 該当するSDGs目標

	南アルプスの豊かな自然に感謝し、生態系や生物の多様性を守ることの大切さを知ることのできる場所として持続可能な形で利用できるようにするために、国や行政だけではなく、団体や民間企業、個人でも支援できるような仕組みを作ることを目指します。（ターゲット：15-1、15-9）
	1960年初め8000人超の人口だった井川地区。平成27年の統計では187世帯343人と現在でも人口減少の一途をたどっています。来年、南アルプスユネスコエコパーク10周年を迎えるにあたり、貴重な自然を守りながら、交流人口を増やし、地域を活性化することで、今後の移住定住者の増加を目指します。（ターゲット：11-4、11-a）
	静岡大学の板倉美奈子教授を会長とし、(一社)SDGsプラットフォーム、(一社)静岡県環境資源協会、(一財)南アルプスみらい財団、静岡商工会青年部、ベルテック静岡などの団体、多数の民間企業、個人からなる約30名のメンバーと共に、持続的な協働体制を構築し、さらなる連携の輪を広げています。

3. 取組イメージ



4. ポイント

これまで登山者に周知できていなかったレスキューポイントに看板を設置することで、方角一の際の救助をより迅速に対応できるようにするだけでなく、南アルプスユネスコエコパーク登録10周年を来年に控え、生態系の保全と持続可能な利活用の調和を目指す活動の一環として、登山者の安全を確保し、地域の観光需要の喚起、将来的な移住定住も視野に入れ、環境整備に貢献しています。

5. 取組が開始されたきっかけと展開

私たちは2021年より、文部科学省の取組の一つである「ユネスコユネスコユネスコユネスコ活動拠点ネットワークの戦略的整備と先進的なユネスコ活動の海外展開を一体的に推進する体制」をきっかけに、余の前身である「ユネスコユネスコユネスコユネスコ」を形成し、地域の課題解決をすべく、「南アルプス」に着目してきました。過疎化が進む「井川地区」の地元の方々や交流しながら、自然、歴史、文化、在来作物について学び、2023年5月に「南アルプスを応援する会」として任意団体を正式に設立。大学や学生、企業、行政の方々が増え、ひとり一人が無理なく、自身でできることから南アルプスに関わることで、持続可能な地域づくりを目指し、この輪を広げていきたいと思います。

6. 応募した取組の今後の計画・展開

聖沢登山道のレスキューポイント看板設置をきっかけに、その他の登山道への看板設置を押し進めるだけでなく、南アルプスの魅力を発信するための新たなプロジェクトも連携の輪を広げながら継続していきたいと思えます。南アルプスとその魅力を繋ぐ大井川は、流域市町を含め多くの住民、企業を繋げる共通の宝です。その自然環境を守り、活かすことで、広域で有機的な連携が生まれます。サスティナブルツーリズムやアドベンチャーツーリズムなど、観光による交流人口、関係人口を増やすことで、地域の発展に寄与できるように、地域の課題を皆で考え、アイデアを出しながら、実行していきます。



7. 汎用性(他の事業所・団体が参加・真似しやすい)ポイント

レスキューポイント看板の設置は、まだスタートしたばかりです。環境保全や教育、安全確保のために他の登山道での設置についても進める必要があり、多くの賛同者に今後もご参加いただきたいと思います。井川、そして南アルプスには歴史、文化、自然、食など様々な魅力があります。地元の方では気づかない魅力を生み出す目で見ると、多種多様な人たちが関わることで新たな事業を生み出す可能性もあります。「南アルプスを応援する会」は会費は一切ありません。想いに賛同した人々が集まり、自発的に関わって組織です。協働、連携により地域産業の発展に今後も貢献していきます。



- 南アルプスを応援する会（設立：2023年5月、活動開始は2021年より）
- 1) 会長 静岡大学グローバル共創学部 板倉美奈子
- 2) 副会長 静岡大学教育学部 藤井益貴
- 3) 会計 (株) 静岡舞臺 永松典子
- 4) 事務局長 (株) 静岡舞臺 永松典子
- 5) 事務副次長 十山 (株) 岸井祐志
- 6) 幹事 (社) 静岡県環境資源協会 平野一之、静岡商工会青年部 中山拓
- 7) 監査役 静岡小議会議員 藤原行雄
- 8) 相談役 元佐原市長 西原茂樹

今回のご支援・ご協力いただいた皆様、この輪を広げたいです。

- (一社) SDGsプラットフォーム、(株)大瀬建設事務所、アートエニオ(株)、葉田泰吉(静岡IC2022)、萩山製作所、
- (一社) 静岡県環境資源協会、十山(株)、西原茂樹、
- (一財) 南アルプスみらい財団、早津和之、徳山輪製作所、
- 平井工業機、丸和杉、兼F1E、ベルテック静岡、星泰雄、
- 例まごころ介護サービス、兼バスハウス、合同会社ワンダーランド、
- 板倉美奈子、中山裕至、井川山岳会、加藤尚事(株)

◎ お問合せ代表

1 貧困をなくそう

地域で子どもを見守るためのハンドブック製作 P18

事業所・団体名	◎ 川原地区社会福祉協議会	所在地	静岡市駿河区下川原6-1-6 かわはら会館内
連携における役割	自治会等の地域団体に対して、子育て・福祉の観点から支援活動や啓発活動を実施している。		
事業所・団体名	一般社団法人 しずおかビジョン研究所	所在地	静岡市駿河区下川原南17番20号
連携における役割	川原地区社会福祉協議会と連携して、ハンドブックの制作における調整役と広報活動を実施している。		

2 飢餓をゼロに

すべての人に健康と福祉を

健康な食環境づくりを!「スマートミール応援プロジェクト」 P19

事業所・団体名	◎ 静岡信用金庫	所在地	静岡市葵区昭和町2番地の1
連携における役割	参加企業募集。		
事業所・団体名	静岡県立大学「ふじのくに」みらい共育センター	所在地	静岡市駿河区谷田52-1
連携における役割	認証取得に向けた学術的助言および申請支援。		
事業所・団体名	おかずymaspi	所在地	静岡市葵区常盤町1丁目2-7
連携における役割	認証取得に向けたメニュー開発、態勢整備。		
事業所・団体名	Rotisserie Un Deux	所在地	静岡市葵区高匠1丁目10-10 シャンピア高匠1F
連携における役割	認証取得に向けたメニュー開発、態勢整備。		
事業所・団体名	Cafe Yamazaki	所在地	静岡市清水区矢倉町2-9
連携における役割	認証取得に向けたメニュー開発、態勢整備。		
事業所・団体名	黒猫ナポリ	所在地	静岡市駿河区中原820-1
連携における役割	認証取得に向けたメニュー開発、態勢整備。		
事業所・団体名	はなもキッチン	所在地	静岡市葵区谷谷4丁目1-30
連携における役割	認証取得に向けたメニュー開発、態勢整備。		

牧之原市 フレイル予防講座&体操教室 P20

事業所・団体名	◎ カイロプラクティック クアトロ(DCCグループ)	所在地	静岡市駿河区向敷地2-9-10 グランバ101号室
連携における役割	「フレイル予防講座」企画、講座および予防体操の実施。		
事業所・団体名	牧之原市健康推進課	所在地	牧之原市静波991-1
連携における役割	「フレイル予防講座」主催者 牧之原市各地区担当者への連絡。		

人と動物の共生社会の実現を目指す活動 P21

事業所・団体名	◎ 静岡県中小企業団体中央会	所在地	静岡市葵区追手町44-1
連携における役割	ペットコミュニティの構築支援、ペット愛好家のネットワークづくりに向けた情報発信。		

事業所・団体名	企業組合動物の森	所在地	静岡市葵区産女987-1
連携における役割	保護猫ふれあい譲渡会の会場・運営。		
事業所・団体名	静岡ねこの会	所在地	
連携における役割	保護猫ふれあい譲渡会の企画立案・運営。		

竹を使った水上自転車走行体験会 P22

事業所・団体名	◎ 静岡県中小企業団体中央会	所在地	静岡市葵区追手町44-1
連携における役割	竹を原料とした商品開発支援、竹材を活用した水上自転車の開発支援。		
事業所・団体名	ふじのくに竹王国企業組合	所在地	浜松市北区豊岡町364-5
連携における役割	放置竹林の拡大防止、竹を資源として有効活用、アクティビティ創出、新たな観光事業の探求。		
事業所・団体名	聖隷クリストファー大学	所在地	浜松市北区三方原町3453
連携における役割	地域との連携・協働による課題解決、健康づくり、疾病等の予防などウェルネスの推進。		
事業所・団体名	入野熟業協同組合	所在地	浜松市西区入野町19954番地の184
連携における役割	佐鳴湖でのイベントサポート、新たな観光事業の探求。		

SUPPORT FOR SMILE エスパルス福祉基金 P23

事業所・団体名	◎ 株式会社 エスパルス	所在地	静岡市清水区三保2695-1
連携における役割	実施主体。		
事業所・団体名	メディアスホールディングス 株式会社	所在地	東京都千代田区有楽町1-2-2 東宝日比谷ビル13階
連携における役割	協働実施。		
事業所・団体名	協和医科器械 株式会社	所在地	静岡市駿河区池田156-2
連携における役割	協働実施。		
事業所・団体名	株式会社 アルバース	所在地	東京都中央区日本橋3-9-1 日本橋3丁目スクエア4F
連携における役割	協働実施。		
事業所・団体名	株式会社 アルバース(静岡オフィス)	所在地	静岡市駿河区高松2-23-39
連携における役割	協働実施。		

4 質の高い教育をみんなに

富士山文化遺産 三保松原の保全活動で集めた松葉アップサイクル「みほのまつあかり」商品化 P11

事業所・団体名	◎ 日興美術 株式会社	所在地	静岡市葵区流通センター12-2
連携における役割	プロジェクトの企画発案・推進・商品開発・販売ルート開拓。		
事業所・団体名	一般社団法人 三保松原3ringsプロジェクト	所在地	静岡市清水区三保1303-3
連携における役割	三保松原の保全活動の推進・商品開発・広報・販売ルート開拓の共同実施。		
事業所・団体名	静岡市立清水三保第一小学校	所在地	静岡市清水区三保106-1
連携における役割	三保松原の保全活動の重要性の理解と、SDGsの実践。		

◎ お問合せ代表

事業所・団体名	三保コミュニティデザインLabo	所在地	静岡市清水区三保松原町30-2
連携における役割	三保松原の保全活動の重要性の伝承と地域教育。		
事業所・団体名	株式会社 ライフプラス	所在地	静岡市葵区千代田4-2-21
連携における役割	商品(みほのまつあかり)の材料仕分け、梱包作業、就労継続支援。		

資源を生かして地域振興プロジェクト P24

事業所・団体名	◎ 株式会社 Bonds	所在地	静岡市葵区御幸町11-8-2F
連携における役割	運営委員会、生徒達の技術指導等。		
事業所・団体名	静岡県立科学技術高等学校	所在地	静岡市葵区長沼500
連携における役割	活性化のための取材計画及び実施。Webサイト内のページ制作。		

女性事業者の活躍を応援!!～WOMAN WILL POWER～ P25

事業所・団体名	◎ しずおか焼津信用金庫	所在地	静岡市葵区相生町1番1号
連携における役割	イベントの企画・広報・運営。		
事業所・団体名	静岡市役所(男女共同参画・人権政策課)	所在地	静岡市葵区追手町5番1号
連携における役割	イベントの企画・広報・運営。		
事業所・団体名	焼津市(企業誘致戦略課)	所在地	静岡県焼津市本町二丁目16番32号
連携における役割	イベントの企画・広報・運営。		
事業所・団体名	藤枝市(創業支援室)	所在地	静岡県藤枝市岡出山1丁目11番1号
連携における役割	イベントの企画・広報・運営。		

「日本で就職」したい留学生のための支援プログラム～学民金連携事業～ P26

事業所・団体名	◎ しずおか焼津信用金庫	所在地	静岡市葵区相生町1-1
連携における役割	インターンシップの受入。		
事業所・団体名	公益財団法人 静岡県国際交流協会	所在地	静岡市駿河区南町14-1
連携における役割	留学生への情報周知・参加募集。		
事業所・団体名	公益社団法人 ふじのくに地域・大学コンソーシアム	所在地	静岡市葵区鷹匠3-6-1 もくせい会館2F
連携における役割	留学生への情報周知・参加募集。		
事業所・団体名	地元中小企業	所在地	
連携における役割	職場体験受入。		

学生がデザインシンキングで草薙の商店の魅力や課題を発見&改善する! P27

事業所・団体名	◎ 常葉大学造形学部	所在地	静岡市葵区潮名1丁目-22-1
連携における役割	活動の中核となるデザインシンキング授業の企画・実施を担当。		
事業所・団体名	草薙商店会	所在地	静岡市清水区草薙1丁目8-20
連携における役割	授業に参加する5店舗と常葉大学との調整役を担当。		

事業所・団体名	株式会社 伊藤電気	所在地	静岡市清水区草薙1丁目8-14
連携における役割	学生の受け入れ先店舗。草薙商店会加盟店舗。		
事業所・団体名	くさなぎ書店眼鏡店	所在地	静岡市清水区草薙1丁目15-2
連携における役割	学生の受け入れ先店舗。草薙商店会加盟店舗。		

事業所・団体名	ミヤマパン	所在地	静岡市清水区草薙1丁目13-19
連携における役割	学生の受け入れ先店舗。草薙商店会加盟店舗。		

事業所・団体名	アレグロ・アッサイ	所在地	静岡市清水区草薙1丁目8-20 さかえビル2F
連携における役割	学生の受け入れ先店舗。草薙商店会加盟店舗。		

事業所・団体名	カリヨン書店	所在地	静岡市駿河区谷田52-1 静岡県立大学 学生ホール2階
連携における役割	学生の受け入れ先店舗。草薙商店会加盟店舗。		

事業所・団体名	静岡市 商業政策課・清水都市整備課	所在地	静岡市清水区旭町6番8号
連携における役割	静岡市の商業振興やまちづくりの現状についての情報を学生に提供。		

災害に向き合うために!未来への備えを、今日から始めよう。 P28

事業所・団体名	◎ 建設システム 静岡第1オフィス	所在地	静岡市葵区奥瀬町1-30 札の辻クロス6階
連携における役割	アプリの開発・運営を行います。より使いやすく、便利で役立つコンテンツの充実を目指しています。		

事業所・団体名	静岡大学 藤井基貴研究室	所在地	静岡市駿河区大谷836
連携における役割	防災教育の観点から、わかりやすく、普段から使える防災知識の提供を行います。		



ジェンダー平等を実現しよう



安全な水とトイレを世界中に



エネルギーをみんなにそしてクリーンに



働きがいも経済成長も



産業と技術革新の基盤をつくろう

海の街の食文化を守れ!だしので地域を元気に! P9

事業所・団体名	◎ 株式会社 ドリームプラザ	所在地	静岡市清水区入船町13-15
連携における役割	だしエキス入りカレーの商品化、販売・イベント企画、実施スペースの提供、協力店舗の交渉窓口、メディア発信、だし教室の場所提供。		

事業所・団体名	有限会社 西尾商店	所在地	静岡市清水区清原4丁目15-37
連携における役割	だしエキスの研究開発・だし教室の講師・だしエキス入りカレーの商品化・試食販売イベント実施。		

◎ お問合せ代表

事業所・団体名	東海大学 海洋学部	所在地	静岡市清水区折戸3-20-1
連携における役割	だしエキスの研究開発、レトルトカレーの官能評価、かつおアイスの企画・商品化、試食販売イベントの実施。		
事業所・団体名	静岡県工業技術研究所	所在地	静岡市葵区牧ヶ谷2078
連携における役割	だしエキスの研究開発・成分分析。		
事業所・団体名	ふるさと	所在地	静岡市清水区春日1-8-12
連携における役割	清水クラフトカリーの商品開発、店頭でクラフトカリーの販売、スタンプラリー企画の実施、だし教室の場所提供。		
事業所・団体名	ワイン食堂 シャンティ	所在地	静岡市清水区西高町1-1 コーポS
連携における役割	清水クラフトカリーの商品開発、店頭でクラフトカリーの販売、スタンプラリー企画の実施。		
事業所・団体名	ボン マスダ	所在地	静岡市清水区江尻東1丁目3-15
連携における役割	清水クラフトカリーの商品開発、店頭でクラフトカリーの販売、スタンプラリー企画の実施。		
事業所・団体名	麺屋 ARIGA	所在地	静岡市清水区入江岡町15-26
連携における役割	清水クラフトカリーの商品開発、店頭でクラフトカリーの販売、スタンプラリー企画の実施。		

さくら棒ソフトクリームで食品ロス削減 P29

事業所・団体名	◎ 株式会社 天神屋	所在地	静岡市駿河区曲金5-1-1
連携における役割	さくら棒ソフトクリームの販売。		
事業所・団体名	株式会社 大黒屋商事	所在地	静岡市藤枝市八幡字宗高521-1
連携における役割	さくら棒端材の提供。		

10 人や国の不平等をなくそう

11 住み続けられるまちづくりを

SDGs環境教育プログラム「雑紙を集めてトイレットペーパーにリサイクル!」～SDFエリア対抗雑紙回収League&Cup～ P13

事業所・団体名	◎ 株式会社 エスパルス	所在地	静岡市清水区三保2695-1
連携における役割	活動の企画と情報発信。活動の主体者。		
事業所・団体名	コアレックス信栄 株式会社	所在地	静岡県富士市中之郷575-1
連携における役割	雑紙回収とトイレットペーパーへのリサイクル。活動の主体者。		
事業所・団体名	東海大学付属静岡翔洋高等学校	所在地	静岡市清水区折戸3丁目20-1
連携における役割	ゼロカーボンサッカークリニック、環境教育レクチャー担当。		
事業所・団体名	静岡県地球温暖化防止活動推進センター	所在地	静岡市葵区黒金町12-5 丸伸ビル
連携における役割	専門的な知見等アドバイザー。		

茶園連未利用資源アップサイクルプロジェクト「茶っぴさいくる～茶抄紙～」 P15

事業所・団体名	◎ 一般社団法人しずおかビジョン研究所	所在地	静岡市駿河区下川原南17番20号
連携における役割	高校生が中心となって企画・運営し、パートナー企業を取りまとめながらSDGs推進に取り組んでいます。		

事業所・団体名	株式会社 白形傳四郎商店	所在地	静岡市葵区神明町96-1
連携における役割	耕作放棄された茶樹を活かす取り組みの一環として「茶ノ実油」を製作しており、その搾油工程で発生する未利用資源を提供してくれています。		
事業所・団体名	株式会社 西商店	所在地	静岡市駿河区中吉田7-92
連携における役割	産廃のリサイクル処理を通じて循環型社会実現に積極的に取り組んでおり、取引先の製茶加工工程で発生した未利用資源を本活動のために提供してくれています。		
事業所・団体名	有限会社 飯塚印刷	所在地	静岡市葵区辰起町4番21号
連携における役割	印刷業を通じたSDGsに取り組んでおり、本エシカル紙の加工・印刷を担当してくれています。		
事業所・団体名	株式会社 STI	所在地	静岡市駿河区下川原南17番20号
連携における役割	アップサイクルによる循環型社会実現に取り組んでおり、本エシカル紙の製造を担当してくれています。		

高校生考案のレシビを商品化! P30

事業所・団体名	◎ 株式会社 濱村屋 静岡本社	所在地	静岡市葵区流通センター5-8
連携における役割	生産者、加工者との橋渡し。		
事業所・団体名	ココロ 株式会社	所在地	愛知県知多市南柏谷新海2-10
連携における役割	メンチカツ製造。		
事業所・団体名	静岡県立小笠高等学校	所在地	静岡県葵市東橋地1222-3
連携における役割	メニューレシビ考案。		

人口減少が続くオフシズの移住者増加のための情報発信 P31

事業所・団体名	◎ 常葉大学 経営学部	所在地	静岡市駿河区弥生町6-1
連携における役割	取組に関する企画・統括、調査・分析、その他の活動全般。		
事業所・団体名	静岡市 葵区役所地域総務課	所在地	静岡市葵区追手町5番1号
連携における役割	各種団体や事業者・静岡市役所庁内各課との顔つなぎ・調整、その他事業推進に要する調整。		
事業所・団体名	常葉大学 地域貢献センター	所在地	静岡市駿河区弥生町6-1
連携における役割	地域連携の推進、学生活動の支援。		
事業所・団体名	日興美術 株式会社	所在地	静岡市葵区流通センター12-2
連携における役割	ガイドブック、フライヤーなどの制作。		
事業所・団体名	地域おこし協力隊	所在地	
連携における役割	地域に関する情報の提供、アドバイザー。		

地域資源と応援の連鎖を作る!学生が主体となった持続可能なイベントの実施 P32

事業所・団体名	◎ 学生団体Con-Takt	所在地	静岡市清水区草薙1-8-18 草薙アザリー3F
連携における役割	全体の企画・運営、広報活動等。		
事業所・団体名	株式会社 アキヤマ	所在地	静岡市清水区草薙1丁目14番13号
連携における役割	足湯の木枠の設計・提供。		
事業所・団体名	草薙神社龍勢保存会	所在地	
連携における役割	竹灯籠のご提供。		

◎ お問合せ代表

事業所・団体名	有限会社 草薙オートサービス	所在地	静岡市清水区草薙1878
連携における役割	車の展示・暴風対策となる車の設置。		

エシカル消費促進に向けたウェブサイトの構築とエシカル飼育の普及 P33

事業所・団体名	◎ 静岡県中小企業団体中央会	所在地	静岡市葵区追手町44番地の1
連携における役割	生産性向上に資する革新的サービス開発のため設備投資に関する支援、プロモーション支援。		

事業所・団体名	企業組合 エシカルリビング	所在地	浜松市天竜区春野町堀之内729番地
連携における役割	ECサイト「エシカルエーモントマーケット」構築・運営。		

事業所・団体名	フラワーズカンパニー	所在地	浜松市天竜区春野町砂川144
連携における役割	エシカル商品提供(鹿肉ジャーキー)。		

事業所・団体名	山香	所在地	浜松市天竜区春野町泉平44-2
連携における役割	エシカル商品提供(エッセンシャルオイル)。		

事業所・団体名	ウッドワイステクノロジー 株式会社	所在地	浜松市天竜区春野町宮川1-1
連携における役割	エシカル商品提供(小屋の生産・販売)。		

事業所・団体名	Aroma Soap MUMU	所在地	愛知県豊川市上長山町藤ハ27-2
連携における役割	エシカル商品提供(天然由来のアロマソープ)。		

事業所・団体名	ムラマサストープ工房	所在地	静岡県袋井市浅岡285-1
連携における役割	エシカル商品提供(薪ストーブ)。		

耕作放棄地整備活動による地域コミュニティ活性化及び自然環境保全 P34

事業所・団体名	◎ 株式会社 アクタガフ	所在地	静岡市葵区常盤町2-13-4
連携における役割	景観整備活動の主催、企画。		

事業所・団体名	大川企業組合	所在地	静岡市駿河区広野6-10-1
連携における役割	景観整備活動の協力、指導。		

若者を防災の担い手に P35

事業所・団体名	◎ 一般社団法人 BOSAI Edulab	所在地	静岡市駿河区小鹿933-2
連携における役割	プログラムの実践支援・他組織との連携支援。		

事業所・団体名	静岡大学教育学部藤井基質研究室	所在地	静岡市駿河区大谷836
連携における役割	プログラムの企画・監修・実践。		

事業所・団体名	中部電力パワーグリッド 株式会社 清水営業所	所在地	静岡市清水区二の丸町6-28
連携における役割	プログラムの実践支援・情報提供。		

12 10 つくる責任 つかう責任

価格高騰の化成肥料をなんとかかせねば!ならば茶細粉を活用してみよう。 P7

事業所・団体名	◎ 成茶加納 株式会社	所在地	静岡市葵区錦町9番地
連携における役割	茶加工によって排出された細粉の無償提供。		

事業所・団体名	大塚製茶	所在地	静岡県岡部郡森町一宮4130-1
連携における役割	細粉を堆肥と混ぜ合わせ茶生産の肥料として活用。		

お菓子でつなぐみんなの輪 [WANOKA 輪乃菓]商品開発 P17

事業所・団体名	◎ 社会福祉法人 霊誠会 アトリエ・ポルト	所在地	静岡市葵区築部4-5
連携における役割	商品の製造・販売。		

事業所・団体名	大石米穀店	所在地	静岡市清水区長崎南町1番48号
連携における役割	廃棄されてしまうもち米を使っておもちを製造。		

事業所・団体名	株式会社 鈴和高店 茶屋すずわ	所在地	静岡市葵区安西3-68
連携における役割	廃棄してしまう緑茶の再生、提供。		

事業所・団体名	株式会社 セブンイレブン・ジャパン三島地区事務所	所在地	静岡県駿東郡長泉町下土狩474-9
連携における役割	販売場所の提供。		

事業所・団体名	有限会社 和田長治商店	所在地	静岡市葵区安西4丁目51
連携における役割	廃棄してしまう緑茶の提供。		

事業所・団体名	おいしい産業 株式会社	所在地	静岡市清水区蒲原小金147-7
連携における役割	桜エビ、アカモクの加工・販売。		

耕作放棄地の再生と循環経済の実現～地域ブランド確立への道～ P36

事業所・団体名	◎ 丸藤商事 有限会社	所在地	静岡市清水区穴原字大内沢1819-1
連携における役割	産業廃棄物を活用した肥料製造。製造した肥料を用いた生姜の栽培。		

事業所・団体名	ウーマン・ラボ	所在地	静岡市駿河区宮竹2-5-2
連携における役割	商品開発と販売。		

事業所・団体名	おじまセレクト 株式会社	所在地	静岡市駿河区中吉田40-14
連携における役割	商品製造と販売。		

事業所・団体名	株式会社 季咲亭	所在地	静岡市葵区谷倉5丁目1番地6
連携における役割	商品開発・製造・販売。		

事業所・団体名	しずおか焼津信用金庫 押切支店	所在地	静岡市清水区押切1448番地
連携における役割	飲食店や製造業者との仲介。		

事業所・団体名	株式会社 nanairo	所在地	静岡市清水区三保1876番地の6
連携における役割	生姜の栽培や下処理。		

事業所・団体名	南部町役場 産業振興課 林政係	所在地	山梨県南巨摩郡南部町福士28505番地2
連携における役割	町内竹林整備事業者等への仲介。		

事業所・団体名	地元農家	所在地	
連携における役割	耕作放棄地の提供と生姜栽培。		

13 気候変動に具体的な対策を

COOL CHOICE inしずおか〜みんなではじめる、エコな選択〜 P37

事業所・団体名	◎ 静岡鉄道 株式会社	所在地	静岡市葵区真匠一丁目1番1号
連携における役割	[COOL CHOICE in しずおか]の全体の企画・実施。		
事業所・団体名	静岡ガス 株式会社	所在地	静岡市駿河区八幡1-5-38
連携における役割	COOL CHOICEの啓発につながるイベントの開催。		
事業所・団体名	地域コラボプロジェクト	所在地	
連携における役割	COOL CHOICEの啓発につながるイベントの開催。		
事業所・団体名	株式会社 テレビ静岡	所在地	静岡市駿河区栗原18番65号
連携における役割	COOL CHOICEの啓発につながるイベントの開催。		
事業所・団体名	株式会社 ドリームプラザ	所在地	静岡市清水区入船町13-15
連携における役割	COOL CHOICEの啓発につながるイベントの開催。		
事業所・団体名	株式会社 エスパルス	所在地	静岡市清水区三保2695番地1
連携における役割	COOL CHOICEの啓発につながるイベントの開催。		
事業所・団体名	株式会社 静岡銀行	所在地	静岡市清水区草薙北2番1号
連携における役割	COOL CHOICEの啓発につながるイベントの開催。		
事業所・団体名	中部電力 株式会社	所在地	静岡市葵区本通二丁目4番地の1
連携における役割	COOL CHOICEの啓発につながるイベントの開催。		
事業所・団体名	静岡市役所環境局環境創造課	所在地	静岡市葵区追手町5-1
連携における役割	高校への出張授業と「ゼロカーボン提案発表会」の共同実施。		

14 海の豊かさを守ろう

楽しく協力しながら、水辺の環境を守っていききたい! P38

事業所・団体名	◎ 株式会社 ジャクソン 本社	所在地	静岡市駿河区登呂6-9-50
連携における役割	1パーセントのソーシャルグッドという環境保護活動を実施している主催者です。釣りというスポーツを本来にわたって持続可能なアクティビティとするため、当該活動を行っています。		
事業所・団体名	株式会社 バリバス 本社	所在地	埼玉県入間市狭山台4-17-11
連携における役割	株式会社ジャクソンが実施する、1パーセントのソーシャルグッドという環境保護活動のうち、水辺の清掃活動に関して協力しています。		
事業所・団体名	株式会社 エイテック 東京営業本部	所在地	東京都板橋区大和町42-11
連携における役割	株式会社ジャクソンが実施する、1パーセントのソーシャルグッドという環境保護活動のうち、水辺の清掃活動に関して協力しています。		

15 陸の豊かさも守ろう

南アルプス聖沢登山道にレスキューポイント看板寄贈 P39

事業所・団体名	◎ 南アルプスを応援する会	所在地	静岡市清水区草薙3-11-1 (既静岡商集会所)
連携における役割	事務局として、会のとりまとめ、会計事務などを担当します。		
事業所・団体名	静岡市経済局農林水産部中山間地振興課	所在地	静岡市葵区千代538-11
連携における役割	静岡県山岳遭難防止対策協議会静岡市支部 支部長として協議会静岡市支部のとりまとめをします。		
事業所・団体名	静岡市消防局しずはた山岳救助隊	所在地	静岡市葵区下94-1
連携における役割	レスキューポイント看板の設置指示、確認を担当します。		
事業所・団体名	静岡市役所環境局環境共生課	所在地	静岡市葵区追手町5-1
連携における役割	南アルプスエコパーク環境保全全般を担当します。		
事業所・団体名	十山 株式会社	所在地	静岡市葵区田代1301-1
連携における役割	主に静岡県山岳遭難防止対策協議会静岡市支部と南アルプスを応援する会の繋ぎ役を担当します。		
事業所・団体名	アートユニオン 株式会社	所在地	静岡市駿河区下川原6丁目28-11
連携における役割	レスキューポイント看板の制作、設置を担当します。		

16 平和と公正をすべての人に

17 パートナーシップで目標を達成しよう

本事例集の取組事例において、提出された応募シート（R5.9時点）を原則そのまま掲載しております。
中には国際連合広報センターが掲載している「カラーホイールを含むSDGsロゴと17のアイコンの
使用ガイドライン」に適合しない表記等が見られる場合がございますので、ご留意ください。